
捨てられた女の子

沙帆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

捨てられた女の子

【Nコード】

N0797T

【作者名】

沙帆

【あらすじ】

中学生になつた優子は、昔仲の良かった友達にもらつた人形を捨ててしまう。しかし次の日の夜中、優子は誰かが自分の部屋のドアをノックする音を聞く。ドアを開けるとそこには誰もいなかった、が・・・

中学生になった優子はある人形を捨てようとしていた。それは数年前引越した際、仲の良かった友達にくれた物で、当時はとても大切にしていた人形だった。その少し黄ばんだ、でも嬉しそうに微笑んでいる三つ編みの女の子をとっくり眺めながら彼女はそっと咳いた。

「私はもう中学生。だからもうこんな幼い人形なんていらないわ」
そしてその女の子を台所の『いらぬ物コーナー』と書かれた箱に捨ててしまったのだった。

次の日も優子は普段通りに学校に通った。クラス委員である彼女は先生からも気に入られよく頼りにされる。それに明るく面白い性格である為、朝家を出てから帰宅するまで一人である事はほとんどなく、常に友達に囲まれている。優子はそんな楽しい日を過ごしている内に、人形の事はすぐに忘れてしまった。

その夜だった。優子は自室であくびをしながら宿題に取り組んでいた。すると部屋のドアを静かに叩く音が聞こえる。お母さんかと思いつ返事をしたが誰かが入ってくる様子もない。不思議に思い、彼女は椅子から立ち上がってドアを開けた。しかしやはり誰もいない。
(なんだ、誰もいないじゃない。気のせいだったのかな?)

そう思った瞬間足にそつと何かが触れた様な気がした。下を見ると昨日捨てたはずの三つ編みの女の子がまるで生きているかのよう立って優子を見上げていてはいないか。

「わあああ!!!」

U子は驚きと恐怖で飛び退いた。優しく微笑んでいる顔がなぜか不気味に見えたのは明かりが暗かったからだろうか。するとどこからかすすり泣く声が聞こえてきた。

「私の事忘れちゃった？嫌いになっちゃった？」
優子は凍り付いた。

「どうして捨てたの？ねえ、どうして？」
女の子はじりじりと詰め寄ってくる。

「お母さん！」

叫んでも声が出ない。家はしんと静まり返ったままだ。

「助けて！」

もう一度声を出そうとした時だった。

優子は机の上に置きっぱなしだった携帯の着信音ではっと目が覚めた。

(夢・・・?)

どうやら途中で眠ってしまったらしい。優子は心底ほっとして急いで電話に出た。

「もしもし？優子？久しぶり！」

受話器の向こうから忘れかけていた声が聞こえてくる。

「やっと連絡付いたー！私の事覚えてる？昔よく一緒に遊んだ玲子だけ。ほら、いつも三つ編みしてた・・・」

まさに人形をくれた本人だった。優子はドキツとした。

「優子？聞こえてる？来週そっちに行くんだけど、久々に少し会えない？」

小学生の頃から三つ編みが得意で、優子が引越す時に、忘れないでねと言って自分そっくりな「三つ編みの女の子」をくれた玲子。優子の事を離れても覚えていてくれていた人。

「あ・・・玲子？うん、覚えてるよ。ごめん、ずっと連絡してなくて。私も久々に会いたい・・・」

電話を切った後、優子は大きく急いで台所に走った。「家の中で走らないのっ！」と言うお母さんの声が響く。『いらぬ物』の前にたどり着くと、一息ついて一度は捨ててしまった人形をそっと拾い上

げた。『女の子』は前と変わらず嬉しそうに微笑んでいる。

「忘れてなんかいないよ。嫌いなわけではないじゃない。捨てちゃったりして本当にごめんね。こんな私だけど、許してくれる？もう一度友達になってくれるかな？」

優子はその人形から「いいよ」という声が聞こえた気がした。

(後書き)

こんにちは、沙帆です。

今回のが初の作品となります。私がこの小説を書いたのは、そもそも学校の授業で「人と物の関係」を用いたお話を書くのが課題だったからです。その為、星新一さんの作品を幾つか読ませていただきこの作品が出来上がりました。

現在私は海外に住んでいて、インターナショナルスクールに通っています。色々な国籍のお友達との出会いがありますが、その分別れも多く今までにたくさんのお友達と離ればなれになってきました。そしてまたこの夏も一人の親友が転校してしまいます。引越しをする方はまだ、楽しみがあり新しい生活に慣れるのに必死です。しかし取り残された方は、自分の生活から一つ大切な物が奪われた様な気がするのです。私は帰国してしまった仲間となるべく連絡を取るようにはしていますが、最初は頻繁にメールが来ていても、一年も経てばこちらからメールをしても返事が返ってこない事が増えてしまいます。毎日でなくても、たまに一緒に過ごした時間を思い出してほしい、「元気だよ」という一言でもいいから返事が欲しい、そんな気持ちで私は『捨てられた女の子』という作品を書いてみました。実際女の子が捨てられる話ではありませんが・・・

長くなって申し訳ありません。少しでもこの小説が心に残ってくればいいなと思います。ありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0797t/>

捨てられた女の子

2011年10月7日22時27分発行